

はじめに

ホイアンはベトナム中部のダナン近郊にある港町で、ここは海流と季節風の関係で古来より日本・中国とヨーロッパを繋ぐ結接点でした。大航海時代には日本町が栄え、それ以前はチャンパ王国の海のシルクロードの拠点、さらに古くはサーフィン文化の中心地のひとつであり、この時代は日本の弥生文化との交流も考えられます。

このホイアンには、東南アジア随一ともいえる18世紀から生き続けた木造の町屋が現存します。町屋は日本の京都に似て中庭型で、ベトナムの古都としての風情と古き生活の姿を今に伝えています。

ベトナム政府は、1985年3月にホイアンの史跡地区を国の文化財に指定し調査保存に乗り出し、1990年3月にフランス・オーストラリア・旧ソ連・ポーランドなども参加して国際シンポジウムを開催しました。そして、この地区はかつては日本町であったことから日本に調査保存への協力が要請され、これに応える形で、1991年より日本文化庁は町並み保存に対する協力を始めました。

昭和女子大学国際文化研究所は、この国際文化協力事業の一翼を担って、千葉大学・東京芸術大学・東海大学・都立大学・ハノイ国家大学・ハノイ建築大学他と国際共同研究チームを作り、歴史的都市ホイアンに対する建築・都市・歴史・考古学等の総合的調査研究を進めてきました。

こうした国際文化協力に対して、ベトナム政府は1995年4月に国際的な協力体制を推進する組織として「ホイアン・ソサエティ（ホイアン文化財・建築保存会）」を認可し、正式に海外からの援助を受け入れる体制を認可しました。6月にグエン・ティ・ビン副大統領を名誉会長に、ベトナム文化情報省・クアンナムダナン省・ホイアン市と一体になって「ホイアンソサエティ」を設立し、世界に協力を呼びかける運動を行なうようになりました。

また、1996年1月、ユネスコのホイアン視察があり、アジア太平洋地域文化財調査官リチャード・エンゲルト名で「ホイアンは世界遺産に登録される途上にあり、ユネスコはこれを全面的に支援する」との声明を出すまでに至りました。

本報告書は、櫻井清彦教授の指導のもと菊池誠一講師を中心に、ホイアンを取り巻く考古学調査の研究成果を中心にまとめたものです。今後のホイアンの町並み保存プロジェクトの推進と観光発展に役立つことを期待いたしております。

1998年3月20日

ホイアン町並み保存プロジェクト代表
昭和女子大学副学長 松本 昭